

田畑売買価格等に関する調査結果

— 令和4年度 —

令和5年3月

一般社団法人秋田県農業会議

は し が き

農業委員会組織では、農地の売買価格の全国的な動向を把握し、農業政策の基礎資料に資することを目的に、「田畑売買価格等に関する調査」を昭和31年から実施している。

本調査結果は、県内の市町村農業委員会のご協力により、令和4年5月1日時点の田畑売買価格を調査し、その結果を取りまとめたものである。

新型コロナウイルスの感染拡大やインバウンド需要の低下、ロシアによるウクライナ侵攻による原材料費やエネルギーコストの高騰など、農業を取り巻く環境は厳しさを増している。こうした中、米の需要減少や価格下落、従来からある農業の後継者不足や担い手の高齢化等の理由により、県内の田畑売買価格は下降傾向が続いている。

こうした状況を打開するため、地域の担い手と県、市町村、農業委員会、関係機関等が一丸となり、地域の農地を未来に繋いでいく活動に取り組むことが重要となる。

本調査結果は、農地に関する業務や担い手の確保・育成に関する業務、農地利用の最適化業務に携わる皆様の活動へ有効的にご活用いただきたい。

最後に、本調査の実施にあたり、多大なご協力をいただいた市町村農業委員会へ、深く感謝申し上げますとともに、今後も農地利用の最適化へ向けた一層の取組みと活躍を祈念申し上げます。

令和5年3月

一般社団法人秋田県農業会議

目 次

I. 調査の目的・方法等	・・・	1
II. 調査結果		
1. 概要	・・・	2
2. 耕作目的の自作地売買価格の動向	・・・	2
3. 農用地区域の自作地売買価格の動向	・・・	8
4. 転用目的の自作地売買価格の動向	・・・	12

I. 調査の目的・方法等

1. 目的と方法

本調査は、全国の田畑売買価格等の動向を把握し、農業政策推進の基礎資料に資することを目的に実施しており、市町村農業委員会にご協力いただき（一社）全国農業会議所が作成した調査票に基づき調査を実施した。

2. 調査地区

昭和 25 年 1 月 1 日当時の旧市町村を調査地区とし、県内の 239 地区を対象に調査した。

3. 調査対象農地

調査地区内の田畑のうち中田（ちゅうでん）と中畑（ちゅうばた）を対象とした。（中田・中畑とは、収量水準や生産条件の標準的な田・畑）

4. 調査対象農地の区分

都市計画法と農業振興地域の整備に関する法律（以下、農振法）により、次のように区分している。

都市計画法による区分		農振法による区分	
都市計画法の線引きが行われていない市町村 (秋田市、潟上市以外の 23 市町村(213 地区))		農用地区域	純農業地域
		農用地区域外	
都市計画法の線引きが行われている市町村 (秋田市、潟上市(26 地区))	市街化調整区域	農用地区域	都市農業地域
	その他の地域		
	市街化調整区域	農用地区域外	
	その他の地域		
	市街化区域	—	

5. 調査時点

令和 4 年 5 月 1 日

6. 調査項目

- (1) 耕作目的の中田・中畑売買価格
- (2) 農用地区域内の中田・中畑価格の上昇・横ばい・下降の傾向と理由
- (3) 使用目的変更（転用）の田畑売買価格
- (4) 樹園地の売買価格（参考）

7. 売買価格

耕作目的の売買価格は、調査時点で売り手・買い手の双方が妥当とみて実際に取引されるであろう価格とし、直近の売買実例価格だけでなく、過去のすう勢や地域の農地事情に精通した方の意見等を参考に決定している。また、使用目的変更（転用）の売買価格は、調査時点（令和 4 年 5 月 1 日）を含む過去 1 年間の売買実例価格を参考に決定している。

Ⅱ. 調査結果

1. 概要

(1) 中田

農用地区域内の中田平均価格は 36 年連続で下降している。純農業地域^{※1}では、令和 3 年の 398 千円に対し、令和 4 年は 382 千円（対前年比 96%）となった。都市農業地域^{※2}では、令和 3 年の 399 千円に対し、令和 4 年は 373 千円（対前年比 93.4%）となった。

(2) 中畑

農用地区域内の中畑平均価格は、純農業地域では令和 3 年の 173 千円に対し、令和 4 年は 161 千円（対前年比 93.1%）となった。一方で、都市農業地域は、令和 3 年の 347 千円に対し、令和 4 年は 371 千円（対前年比 107%）と上昇した。

(3) 結果

純農業地域の農用地区域内の中田価格は、昭和 61 年の 1,477 千円をピークに 36 年連続して下降している。10 年前（平成 24 年）と比較すると 209 千円（35.4%）の下落となった。

一方で、都市農業地域の農用地区域内の中畑価格は、対前年比 107%となっており、昨年から 2 年連続で上昇した。

また、売買価格の動向^{※3}は、「横ばい」と「下降」が全体の 97.9%を占め、その理由として、「農地の買手が少ない、買い控え」、「米価などの農産物価格が低い」、「農業の後継者不足」という調査結果が多数を占めた。

※1 純農業地域：都市計画法の線引きが行われていない 23 市町村

※2 都市農業地域：都市計画法の線引きが行われている 2 市（秋田市、潟上市）

※3 売買価格の動向：「上昇」…3%超の価格の上昇、「横ばい」…3%以内の価格の上昇・下落、
「下降」…3%超の価格の下落

2. 耕作目的の自作地売買価格の動向

(1) 純農業地域の自作地売買価格【表—1、参考—1】

①農用地区域内

中田の平均売買価格は 382 千円で対前年比 96%、中畑の売買価格は 161 千円で対前年比 93.1%となった。

②農用地区域以外の区域

中田の平均売買価格は 366 千円で対前年比 94.9%、中畑の売買価格は 189 千円で対前年比 94.6%となった。

表－1 純農業地域の地域別自作地売買価格

(単位：千円/10a)

地域	中 田						中 畑					
	農用地区域内			農用地区域以外の区域			農用地区域内			農用地区域以外の区域		
	3年	4年	対前年比	3年	4年	対前年比	3年	4年	対前年比	3年	4年	対前年比
鹿角	258	238	92.2%	403	362	89.8%	116	107	92.2%	189	169	89.4%
北秋田	395	370	93.7%	323	305	94.4%	125	125	100.0%	138	140	101.4%
山本	350	342	97.7%	283	268	94.7%	113	112	99.1%	84	87	103.6%
秋田	512	496	96.9%	415	375	90.4%	234	225	96.2%	312	272	87.2%
由利	587	581	99.0%	570	570	100.0%	263	200	76.0%	248	248	100.0%
仙北	329	323	98.2%	387	377	97.4%	163	161	98.8%	220	215	97.7%
平鹿	418	375	89.7%	450	425	94.4%	222	206	92.8%	250	225	90.0%
雄勝	333	330	99.1%	257	249	96.9%	145	145	100.0%	158	157	99.4%
平均	398	382	96.0%	386	366	94.9%	173	161	93.1%	200	189	94.6%

参考－1 農業地域類型別自作地売買価格

(単位：千円/10a)

農業地域 類型	中 田						中 畑					
	農用地区域内			農用地区域以外の区域			農用地区域内			農用地区域以外の区域		
	3年	4年	対前年比	3年	4年	対前年比	3年	4年	対前年比	3年	4年	対前年比
都市的地域	519	497	95.8%	717	701	97.8%	241	236	97.9%	445	440	98.9%
平地農業地域	400	382	95.5%	386	367	95.1%	200	194	97.0%	234	225	96.2%
中間農業地域	403	390	96.8%	370	361	97.6%	174	172	98.9%	165	164	99.4%
山間農業地域	305	293	96.1%	286	276	96.5%	118	117	99.2%	120	119	99.2%
平均	407	391	96.0%	440	426	96.9%	183	180	98.1%	241	237	98.3%

(2) 都市農業地域の自作地売買価格【表－2】

都市農業地域の中田、中畑売買価格は市街化調整区域の農用地区域内では、中田は下降、中畑は上昇となり、その他の地域は横ばいとなった。

表－2 都市農業地域の自作地売買価格

(単位：千円/10a)

農業地域類型	中 田			中 畑		
	市街化調整区域		市街化 区 域	市街化調整区域		市街化 区 域
	農用地区域内	農用地区域以外の区域		農用地区域内	農用地区域以外の区域	
都市的地域	714	1,460	4,843	993	1,383	3,919
平地農業地域	344	436	270	188	467	260
中間農業地域	333	450	3,355	254	500	
山間農業地域	100			50		
平均(4年)	373	782	2,823	371	783	2,090
平均(3年)	399	789	2,821	347	796	2,093
対前年比	93.4%	99.1%	100.1%	107.0%	98.4%	99.8%

(3) 農用地区域内の中田売買価格の年次別推移【表－3、図－1】

令和4年の平均売買価格は、382千円と過去10年間で最も低く、10年前（平成24年）と比べ209千円（35.4%）下落している。

地域ごとに売買価格の年次別推移を見てみると、下落幅が最も大きい鹿角地域では312千円（56.7%）下落しており、最も小さい秋田地域では109千円（18%）下落している。

表－3 農用地区域内中田売買価格の年次別推移

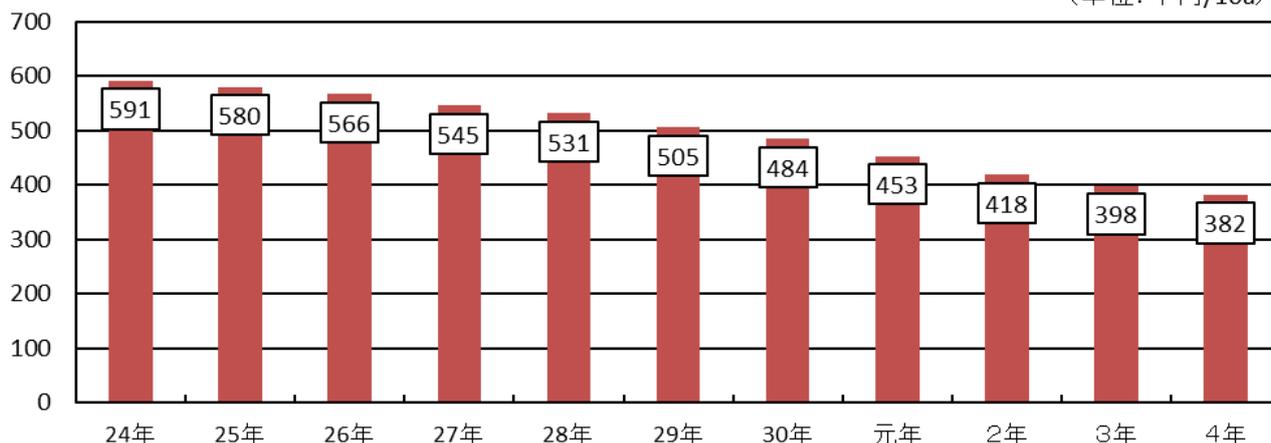
(単位：千円/10a)

区分	鹿角	北秋田	山本	秋田	由利	仙北	平鹿	雄勝	平均	
価格	24年	550	581	461	605	710	514	674	629	591
	25年	519	581	457	605	710	475	671	623	580
	26年	491	581	442	584	710	441	668	612	566
	27年	466	553	424	551	697	428	637	605	545
	28年	443	553	417	539	685	393	618	598	531
	29年	373	553	377	534	651	377	614	558	505
	30年	350	553	359	534	607	366	588	513	484
	元年	330	538	354	524	600	350	527	397	453
	2年	287	457	351	512	593	342	453	346	418
	3年	258	395	350	512	587	329	418	333	398
	4年	238	370	342	496	581	323	375	330	382
平成24年と比較	24年	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	25年	94.4%	100.0%	99.1%	100.0%	100.0%	92.4%	99.6%	99.0%	98.1%
	26年	89.3%	100.0%	95.9%	96.5%	100.0%	85.8%	99.1%	97.3%	95.8%
	27年	84.7%	95.2%	92.0%	91.1%	98.2%	83.3%	94.5%	96.2%	92.2%
	28年	80.5%	95.2%	90.5%	89.1%	96.5%	76.5%	91.7%	95.1%	89.8%
	29年	67.8%	95.2%	81.8%	88.3%	91.7%	73.3%	91.1%	88.7%	85.4%
	30年	63.6%	95.2%	77.9%	88.3%	85.5%	71.2%	87.2%	81.6%	81.9%
	元年	60.0%	92.6%	76.8%	86.6%	84.5%	68.1%	78.2%	63.1%	76.6%
	2年	52.2%	78.7%	76.1%	84.6%	83.5%	66.5%	67.2%	55.0%	70.7%
	3年	46.9%	68.0%	75.9%	84.6%	82.7%	64.0%	62.0%	52.9%	67.3%
	4年	43.3%	63.7%	74.2%	82.0%	81.8%	62.8%	55.6%	52.5%	64.6%

注) 都市計画法区域市町村を除く

図－1 中田売買価格の年次別推移

(単位：千円/10a)



(4) 農用地区域内の中畑売買価格の年次別推移【表－4、図－2】

令和4年の平均売買価格は、161千円と過去10年間で最も低く、10年前（平成24年）と比べ87千円（35.1%）下落している。

地域ごとに売買価格の年次別推移を見てみると、下落幅が最も大きい鹿角地域では147千円（57.9%）下落しており、最も小さい秋田地域では45千円（16.7%）下落している。

表－4 農用地区域内中畑売買価格の年次別推移

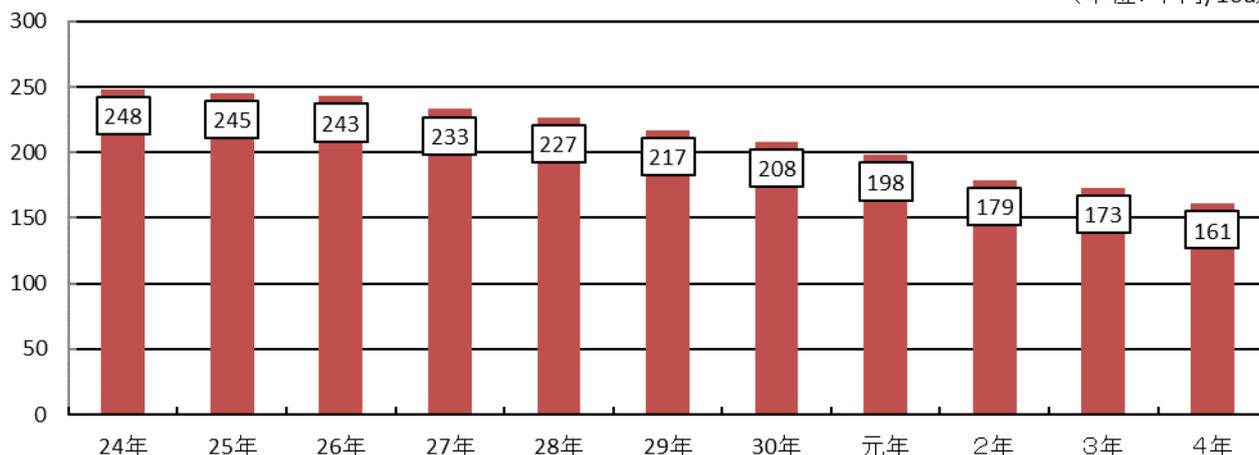
(単位：千円/10a)

区分	鹿角	北秋田	山本	秋田	由利	仙北	平鹿	雄勝	平均	
価格	24年	254	184	148	270	304	209	364	250	248
	25年	240	184	144	270	313	196	364	247	245
	26年	229	184	138	264	313	203	364	245	243
	27年	218	175	129	251	313	194	344	242	233
	28年	208	175	126	245	313	181	328	239	227
	29年	167	175	119	241	293	178	325	232	217
	30年	170	175	114	241	272	178	297	210	208
	元年	162	172	114	241	271	169	263	188	198
	2年	129	130	113	234	267	168	234	152	179
	3年	116	125	113	234	263	163	222	145	173
	4年	107	125	112	225	200	161	206	145	161
平成24年と比較	24年	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	25年	94.5%	100.0%	97.3%	100.0%	103.0%	93.8%	100.0%	98.8%	98.8%
	26年	90.2%	100.0%	93.2%	97.8%	103.0%	97.1%	100.0%	98.0%	98.0%
	27年	85.8%	95.1%	87.2%	93.0%	103.0%	92.8%	94.5%	96.8%	94.0%
	28年	81.9%	95.1%	85.1%	90.7%	103.0%	86.6%	90.1%	95.6%	91.5%
	29年	65.7%	95.1%	80.4%	89.3%	96.4%	85.2%	89.3%	92.8%	87.5%
	30年	66.9%	95.1%	77.0%	89.3%	89.5%	85.2%	81.6%	84.0%	83.9%
	元年	63.8%	93.5%	77.0%	89.3%	89.1%	80.9%	72.3%	75.2%	79.8%
	2年	50.8%	70.7%	76.4%	86.7%	87.8%	80.4%	64.3%	60.8%	72.2%
	3年	45.7%	67.9%	76.4%	86.7%	86.5%	78.0%	61.0%	58.0%	69.8%
	4年	42.1%	67.9%	75.7%	83.3%	65.8%	77.0%	56.6%	58.0%	64.9%

注) 都市計画法区域市町村を除く

図－2 中畑売買価格の年次別推移

(単位：千円/10a)



(5) 農用地区域内の中田・中畑の売買価格水準

①中田【表－5、図－3（1）、図－3（2）】

売買価格別地点数を見ると、10年前（平成24年）は、60～80万円未満の価格帯が最も多かったが、現在は20～40万円未満の価格帯が最も多く全体の58.8%を占めている。

表－5 地域別中田売買価格の水準

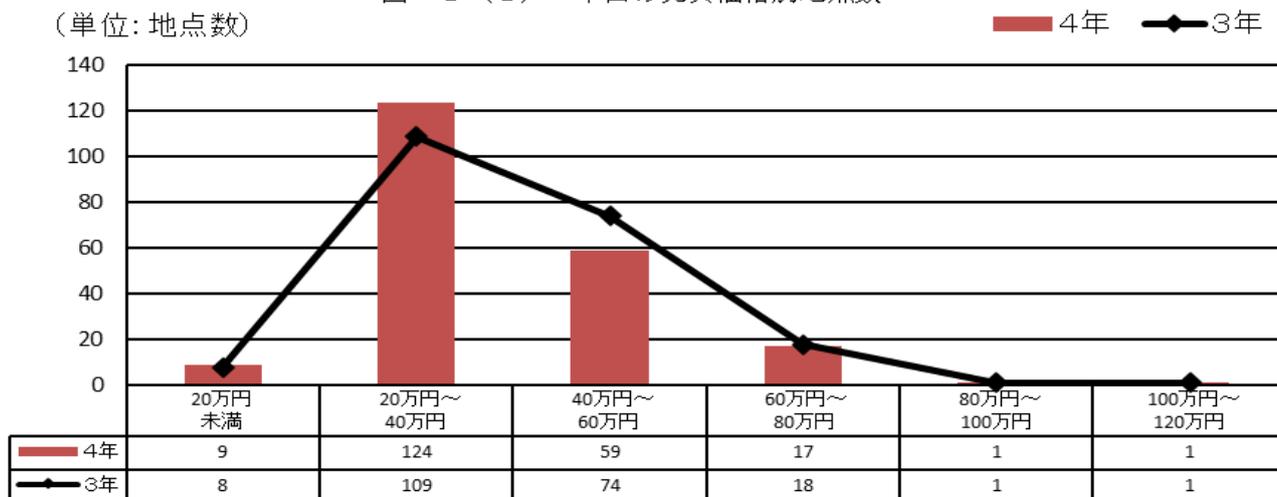
(単位：地点数)

区分	鹿角	北秋田	山本	秋田	由利	仙北	平鹿	雄勝	計	
									実数	構成比
20万円未満	1	2				1	1	4	9	4.3%
20万円～40万円	9	26	18	11		34	10	16	124	58.8%
40万円～60万円	1	4	7	7	12	7	18	3	59	28.0%
60万円～80万円					17				17	8.1%
80万円～100万円								1	1	0.5%
100万円～120万円				1					1	0.5%
計	11	32	25	19	29	42	29	24	211	100.0%

注 都市計画法区域市町村を除く

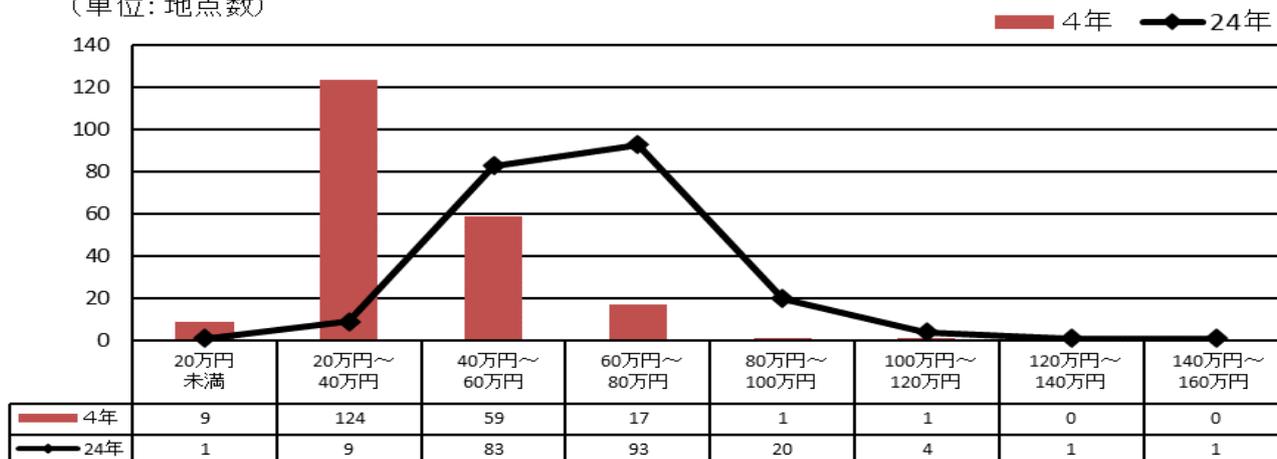
図－3（1） 中田の売買価格別地点数

(単位：地点数)



図－3（2） 中田の売買価格別地点数(10年前)

(単位：地点数)



②中畑【表一6、図一4（1）、図一4（2）】

売買価格別地点数を見ると、10年前（平成24年）は20～30万円未満の価格帯が最も多かったが、現在は10～20万円未満の価格帯が最も多く全体の41.7%を占めている。

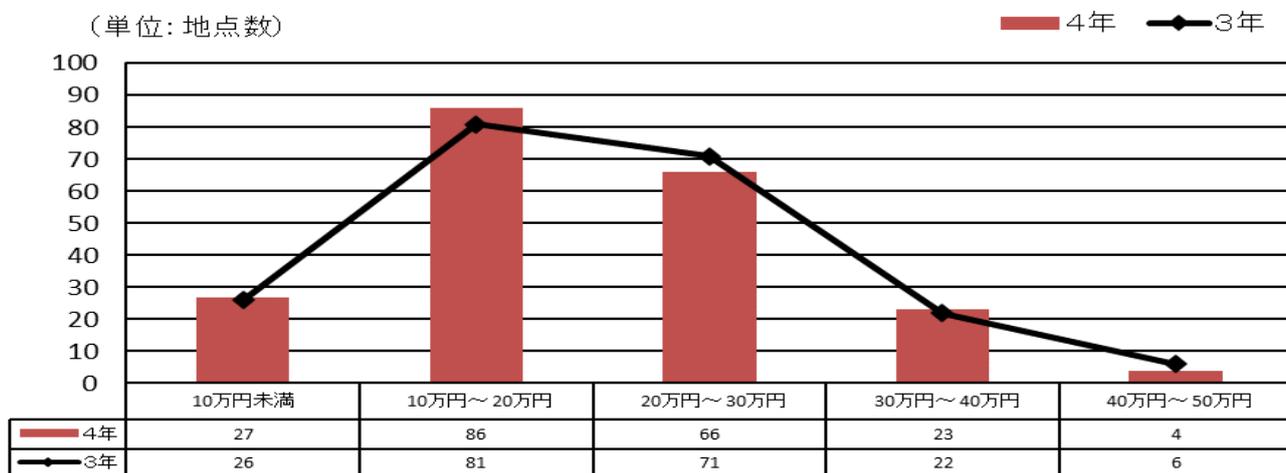
表一6 地域別中畑売買価格の水準

(単位：地点数)

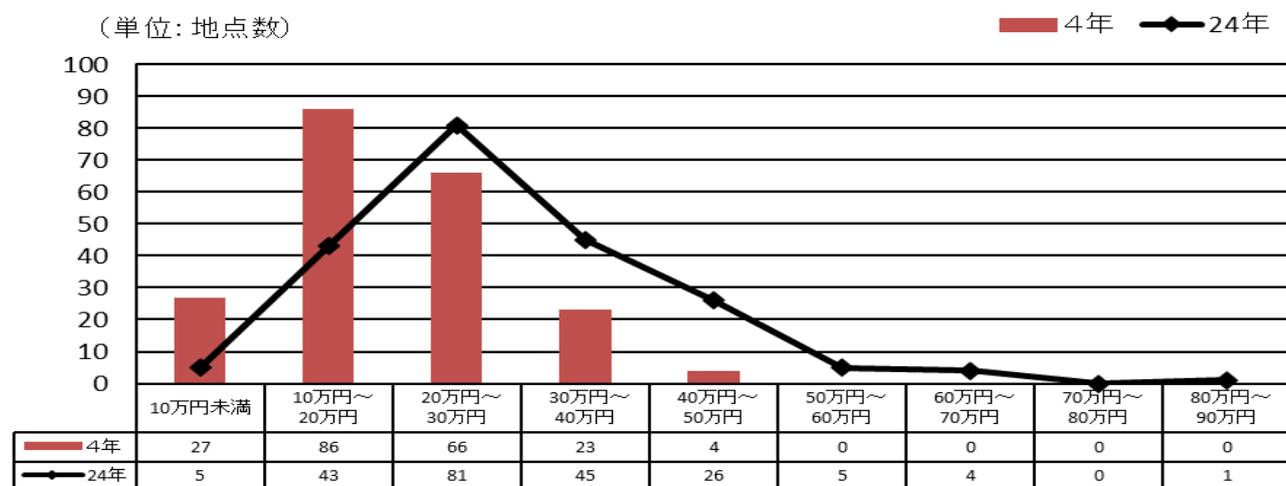
区 分	鹿 角	北秋田	山 本	秋 田	由 利	仙 北	平 鹿	雄 勝	計	
									実 数	構 成 比
10万円 未満	5	5	9	4		1	1	2	27	13.1%
10万円 ～ 20万円	6	19	11	4	4	20	10	12	86	41.7%
20万円 ～ 30万円		5	5	6	13	18	12	7	66	32.0%
30万円 ～ 40万円		2		4	8	2	5	2	23	11.2%
40万円 ～ 50万円					1	1	1	1	4	1.9%
計	11	31	25	18	26	42	29	24	206	100.0%

注 都市計画法区域市町村を除く

図一4（1） 中畑の売買価格別地点数



図一4（2） 中畑の売買価格別地点数(10年前)



3. 農用区域内の自作地売買価格の動向

(1) 中田・中畑の売買価格の動向【表－7、図－5、図－6】

中田・中畑ともに「横ばい」となった地点が最も多く、構成比は、中田が65.7%、中畑が78.5%を占めている。

「下降」となった地点は、中田が32.2%、中畑が19.3%を占めている。

表－7 地域別売買価格の動向

(単位：地点数)

地 域	中 田							
	上 昇		横 ば い		下 降		計	
	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
鹿 角	0	0	0	0	11	11	11	11
北秋田	0	0	4	12	28	20	32	32
山 本	0	0	23	21	2	4	25	25
秋 田	0	1	30	31	8	6	38	38
由 利	0	0	25	25	4	4	29	29
仙 北	3	1	32	37	7	4	42	42
平 鹿	0	0	11	10	18	19	29	29
雄 勝	4	3	10	15	10	6	24	24
計	7	5	135	151	88	74	230	230
構成比	3.0%	2.2%	58.7%	65.7%	38.3%	32.2%	100.0%	100.0%
地 域	中 畑							
	上 昇		横 ば い		下 降		計	
	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
鹿 角	0	0	0	0	11	11	11	11
北秋田	0	0	15	31	16	0	31	31
山 本	0	0	24	22	1	3	25	25
秋 田	2	3	27	29	6	3	35	35
由 利	0	0	22	22	4	4	26	26
仙 北	0	0	33	35	9	7	42	42
平 鹿	0	0	16	15	13	14	29	29
雄 勝	0	2	17	21	7	1	24	24
計	2	5	154	175	67	43	223	223
構成比	0.9%	2.2%	69.1%	78.5%	30.0%	19.3%	100.0%	100.0%

図-5 中田売買価格の地域別動向

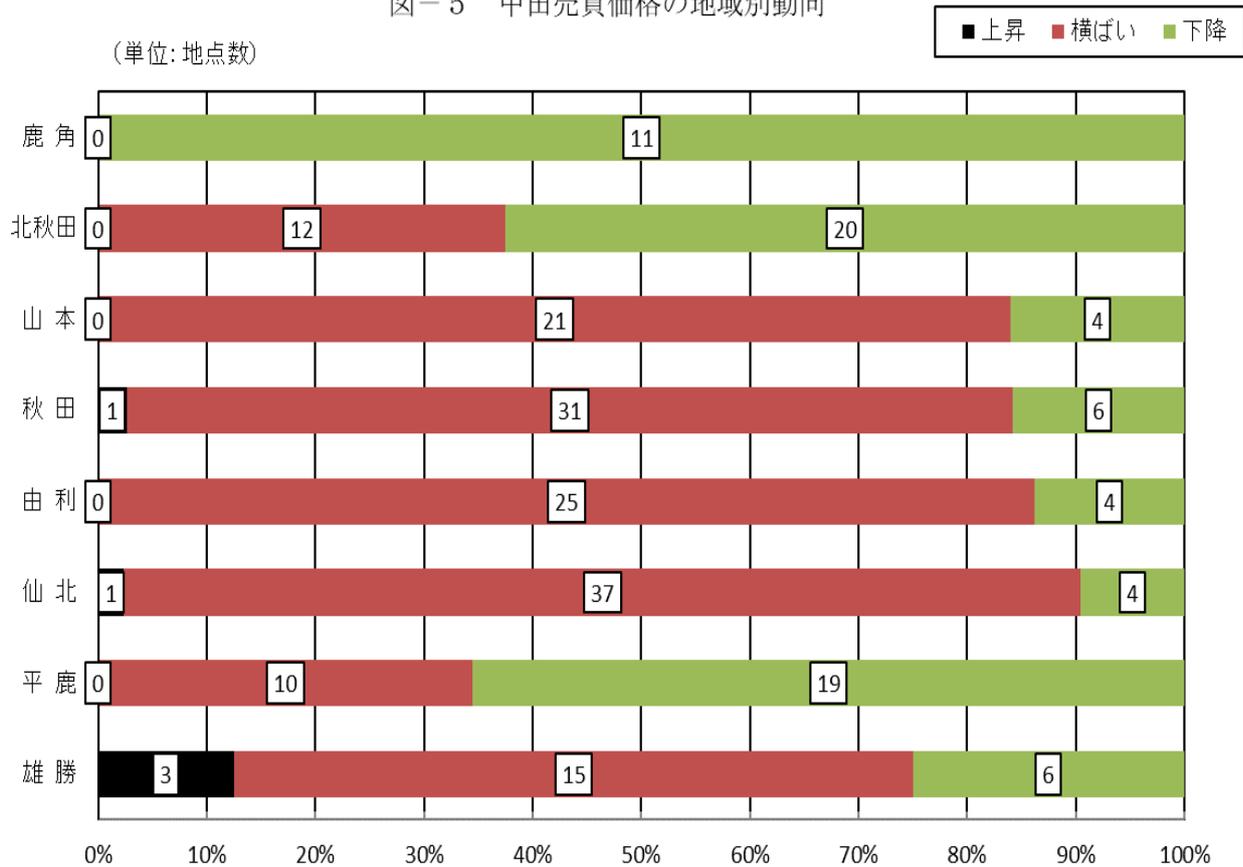
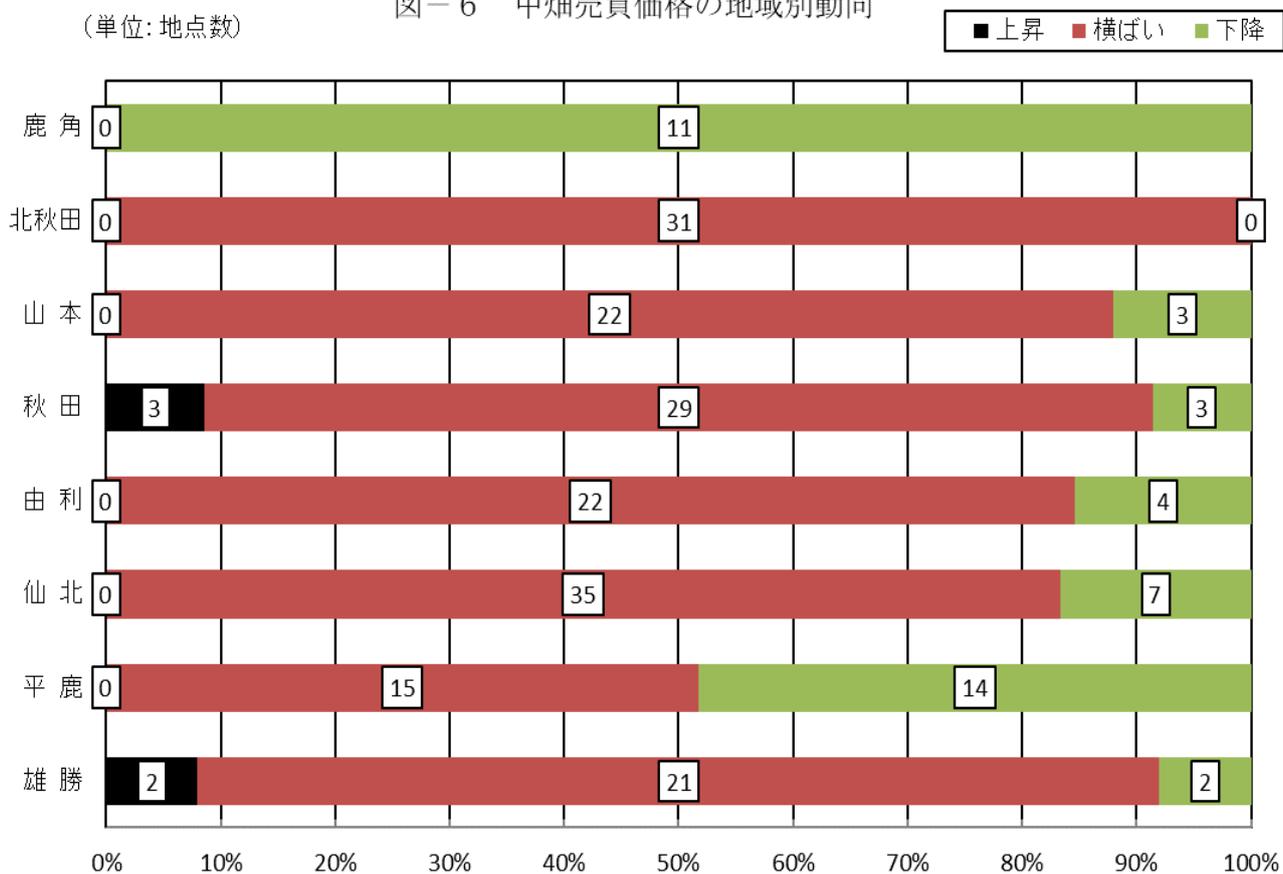


図-6 中畑売買価格の地域別動向



(2) 中田・中畑の売買価格「横ばい」の理由【表－8、表－9】

中田は、「農地の買い手が少ない・買い控え」が最も多く 65.6%を占めており、次いで「米価などの農産物価格が低い」が 23.2%を占めている。

中畑は、「農地の買い手が少ない・買い控え」が 63.4%、「農業の後継者不足」が 17.1%を占めている。

表－8 中田の地域別横ばい理由

横ばいの理由	鹿角	北秋田	山本	秋田	由利	仙北	平鹿	雄勝	計	
									実数	構成比
全体として農業の生産意欲が減退									—	0.0%
米価などの農産物価格が低い		1	2	8	3	11	3	7	35	23.2%
米の需給調整（生産数量目標）									—	0.0%
兼業化の進行等による労働力不足									—	0.0%
離農などによる過疎化の進行									—	0.0%
農業の後継者不足		11							11	7.3%
農地価格が農業収益等で買える限界に達している							2		2	1.3%
農地の買い手が少ない・買い控え			19	23	22	22	5	8	99	65.6%
あっせん事業等により価格水準が保持									—	0.0%
負債整理のための農地売却が多い									—	0.0%
土地投機や開発、宅地化、代替地取得等がおさまった									—	0.0%
その他						4			4	2.6%
計	0	12	21	31	25	37	10	15	151	100.0%

表－9 中畑の地域別横ばい理由

横ばいの理由	鹿角	北秋田	山本	秋田	由利	仙北	平鹿	雄勝	計	
									実数	構成比
全体として農業の生産意欲が減退									—	0.0%
米価などの農産物価格が低い		1	2	5		7	6	1	22	12.6%
米の需給調整（生産数量目標）									—	0.0%
兼業化の進行等による労働力不足									—	0.0%
離農などによる過疎化の進行									—	0.0%
農業の後継者不足		30							30	17.1%
農地価格が農業収益等で買える限界に達している							2	6	8	4.6%
農地の買い手が少ない・買い控え			20	24	22	24	7	14	111	63.4%
あっせん事業等により価格水準が保持									—	0.0%
負債整理のための農地売却が多い						1			1	0.6%
土地投機や開発、宅地化、代替地取得等がおさまった									—	0.0%
その他						3			3	1.7%
計	0	31	22	29	22	35	15	21	175	100.0%

(3) 中田・中畑売買価格「下降」の理由【表－10、表－11】

中田は、「米価などの農産物価格が低い」が最も多く 41.9%を占めており、次いで「農地の買い手が少ない・買い控え」が 24.3%を占めている。

中畑は、「農地の買い手が少ない・買い控え」が 46.5%、「米の需給調整（生産数量目標）」が 20.9%を占めている。

表－10 中田の地域別下降理由

下降の理由	鹿角	北秋田	山本	秋田	由利	仙北	平鹿	雄勝	計	
									実数	構成比
全体として農業の生産意欲が減退	2						3		5	6.8%
米価などの農産物価格が低い		15		2	2	1	11		31	41.9%
米の需給調整（生産数量目標）	9								9	12.2%
兼業化の進行等による労働力不足									—	0.0%
離農などによる過疎化の進行								1	1	1.4%
農業の後継者不足		5			2				7	9.5%
農地価格が農業収益等で買える限界に達している							2		2	2.7%
農地の買い手が少ない・買い控え			4	4		2	3	5	18	24.3%
あっせん事業等により価格水準が保持									—	0.0%
負債整理のための農地売却が多い						1			1	1.4%
土地投機や開発、宅地化、代替地取得等がおさまった									—	0.0%
その他									—	0.0%
計	11	20	4	6	4	4	19	6	74	100.0%

表－11 中畑の地域別下降理由

下降の理由	鹿角	北秋田	山本	秋田	由利	仙北	平鹿	雄勝	計	
									実数	比率
全体として農業の生産意欲が減退	2						1		3	7.0%
米価などの農産物価格が低い							5		5	11.6%
米の需給調整（生産数量目標）	9								9	20.9%
兼業化の進行等による労働力不足				2					2	4.7%
離農などによる過疎化の進行								1	1	2.3%
農業の後継者不足									—	0.0%
農地価格が農業収益等で買える限界に達している							2		2	4.7%
農地の買い手が少ない・買い控え			3	1	4	6	6		20	46.5%
あっせん事業等により価格水準が保持									—	0.0%
負債整理のための農地売却が多い									—	0.0%
土地投機や開発、宅地化、代替地取得等がおさまった									—	0.0%
その他						1			1	2.3%
計	11	0	3	3	4	7	14	1	43	100.0%

4. 転用目的の自作地売買価格の動向【表－12、表－13、参考－2】

都市農業地域では、市街化区域、市街化調整区域ともに、住宅用地の価格変動はなく、純農業地域では、中田・中畑ともに住宅用地、商業・工業用地それぞれの価格は上昇している。

表－12 都市農業地域の転用目的売買価格

(単位：円/3.3㎡)

区分	市街化区域							
	中田				中畑			
	住宅用地 (民間)	商業・ 工業用地 (民間)	国・県道、 高速道、 鉄道用地	学校・公 共施設等	住宅用地 (民間)	商業・ 工業用地 (民間)	国・県道、 高速道、 鉄道用地	学校・公 共施設等
令和3年	22,520	20,000		17,000	36,500	20,000		
令和4年	22,520				36,500			
対前年比	100.0%	—	—	—	100.0%	—	—	—
区分	市街化調整区域							
	中田				中畑			
	住宅用地 (民間)	商業・ 工業用地 (民間)	国・県道、 高速道、 鉄道用地	学校・公 共施設等	住宅用地 (民間)	商業・ 工業用地 (民間)	国・県道、 高速道、 鉄道用地	学校・公 共施設等
令和3年	10,950	8,500			15,000	8,500		
令和4年	10,950				15,000			
対前年比	100.0%	—	—	—	100.0%	—	—	—

表－13 純農業地域の転用目的売買価格

(単位：円/3.3㎡)

地域	中田				中畑			
	住宅用地 (民間)	商業・ 工業用地 (民間)	国・県道、 高速道、 鉄道用地	学校・公 共施設等	住宅用地 (民間)	商業・ 工業用地 (民間)	国・県道、 高速道、 鉄道用地	学校・公 共施設等
鹿角	26,500	23,000			19,833	40,000		
北秋田	13,450	27,000			14,200	7,667		
山本	12,147	12,931			12,014	16,746		
秋田	30,000				10,000			
由利	35,837	3,744		21,410	15,176	10,484		
仙北	22,462	19,538			16,955	13,615		
平鹿	23,333	30,000			21,333	23,000		
雄勝	21,554	17,304	6,600		10,095	7,108		
平均(4年)	23,160	19,074	6,600	21,410	14,951	16,946	—	—
平均(3年)	22,439	18,513	—	—	14,340	13,652	—	—
対前年比	103.2%	103.0%	—	—	104.3%	124.1%	—	—

参考－2 農業地域類型別転用目的売買価格

(単位：円/3.3㎡)

農業地域類型	中田				中畑			
	住宅用地 (民間)	商業・ 工業用地 (民間)	国・県道、 高速道、 鉄道用地	学校・公 共施設等	住宅用地 (民間)	商業・ 工業用地 (民間)	国・県道、 高速道、 鉄道用地	学校・公 共施設等
都市的地域	32,788	33,550			34,322	42,300		
平地農業地域	19,663	14,295	8,250	21,410	14,109	10,239		
中間農業地域	17,161	9,683	4,950		10,916	11,938		
山間農業地域	9,800	8,740			10,824	7,550		
平均(4年)	19,853	16,567	6,600	21,410	17,543	18,007	—	—
平均(3年)	21,566	17,077	—	—	21,451	17,609	—	—

注) 都市計画法区域市町村を除く

